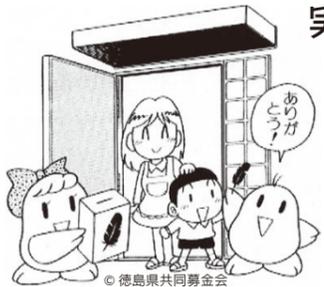




地域の福祉、みんなで参加

10月1日から翌年3月31日まで
実施しています。



※翌年1月1日から
3月31日までは、
テーマ募金期間

みなさまのご協力
をお願いいたします。



とくしま
福祉広報

199号
september.2019

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250
e-mail: info@e-fukushi.jp http://fukushi-tokushima.or.jp/

第17回 四国地域福祉実践セミナー in 徳島市



総括講演 / 東北福祉大学大学院教授
公益財団法人テクノエイド協会 特定非営利活動法人
日本地域福祉研究所理事長 大橋 謙策 氏

7月27日(土)・28日(日)、<地域共生社会を目指した新たな支え合い>をテーマに、地域課題解決型の『新たな支え合い』の実践と参加者の交流を深め、地域共生社会を目指した四国の地域福祉実践とまちづくり活動を考えることを目的に開催されました。



会場：四国大学（徳島市応神町）
参加者：約600名（地域福祉に関心のある住民、ボランティア、医療・保健・福祉及び地域福祉に携わる専門職、行政・民生委員児童委員、社会福祉法人等の関係者）
主催：四国地域福祉実践セミナー実行委員会



シンポジウム

地域のちから 五七五(俳句)
特選句
●懸案を一つかたづけ
盆の月
(徳島市 大西 智城氏)
●梅雨晴れてよしの
響く阿波の路
(徳島市 日開野 博氏)
参加者からの投句86句中
特選2句

Ripple リプルとは、波紋のことです。

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。



ボランティア・
NPOの情報紙
48号 september.2019

とくしま県民活動プラザ

770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
沖洲マリンターミナルビル1F
tel:088-664-8211 fax:088-664-5345
e-mail:info@plaza-tokushima.com
http://www.plaza-tokushima.com
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)



マスコットキャラクター プラザ

NPO法人 徳島県断酒会

「断酒会」は、1958年に誕生した酒害者(お酒に悩む人達)による酒害者のための全国組織です。創立48周年を迎えた「特定非営利活動法人徳島県断酒会」の会員と家族会の皆さんの酒のない新しい人生を明るく生きるための活動についてご紹介したいと思います。

Q. 断酒会では何をやっているの？

特別に難しいことをやっているわけではありません。断酒会に出席して、会員一人一人が酒害体験と自分自身を率直に語り、それを聴くだけです。断酒会例会では、会員同士は完全に平等の立場で、そこには身分、職業、性別の差は一切存在しません。



Q. それでお酒がやめられるの？

断酒会で語り、聴くことで自分と酒の関係がはっきりと見え、共通の悩みを持った者同士の信頼関係が生まれます。そこで断酒に踏み切り、断酒を継続する努力を始めるのです。断酒を継続することで、新しい人生を創り、力強く生きていくのだという自覚と自信が湧いてきます。

Q. 断酒会で何が得られるの？

断酒会例会で体験談を聴き語ることで、ひとつひとつの問題が掘り起こされ、解決の糸口が見えてくるのです。解決することが償いに繋がり、償おうとする努力を通して変わっていき、長い飲酒生活の間に傷つき失われた家族や社会との信頼関係を取り戻します。



ひと48号 september.2019 CONTENTS

特集 NPO法人 徳島県断酒会
断つ・克つ・生きる

ひと けん玉は最強のコミュニケーションツール
日本けん玉協会徳島県支部長 田崎 隆也さん

シリーズ この人から
「高校生プロジェクト!チーム Re:ver」
NPO法人エコロジカル・ファーストエイド
佐藤 貴志さん

ハートリレー
No.48 山本さんから木村さんへ

地域の中での自分の居場所づくり
高齢者サロンについて 古川 明美さん

子どもたちのボランティア活動
「地域を愛する心を育む」 三加茂中学校

NPO法人 徳島県断酒会

断つ・克つ・生きる

アルコール依存症は誰でもかかりうる病気。そして必ず治る病気です。

理事長 原 昇平さん



本会は昭和46年に設立され、平成14年2月に「特定非営利活動法人徳島県断酒会」として新たにスタートし、今年の2月で48周年を迎えることができました。

設立以来、県内の酒害に悩む人々に断酒を勧め、また断酒を志す者を支援し、酒害に関する相談活動を行うなど、行政・医療機関と連携して保健・医療・福祉の増進に関する活動を幅広く展開して

きました。この間、支部・例会場が増え現在7支部19会場で例会を開催しております。現在、全国に109万人のアルコール依存症者がおり、徳島県のアルコール依存症者は6500人。そのうち女性が900人と推計されています。その中で断酒会と繋がっているのはわずか150人です。

県内には依然として酒害に苦しむ人とその家族が数多く存在しているにもかかわらず、多くの人々が治療や相談に繋がっておらず、いまだ断酒会の存在さえ知らない人も沢山います。このためアルコール関連の問題を解決するために、関係者の方々と協働することで、現在酒害により苦しんでいる方が一人でも多く断酒会に繋がって頂けるよう、会員・家族会一丸となり努力していきたいと思ひます。

会員からのメッセージ

家族の協力と繋がりが大切

断酒会に来たら、酒がやめられるという会ではありません。やめ方を教わるのではなく、例会に参加して、それぞれの会員と家族の体験談を話し、聴くことにより、初めは「あんなに悪いやつもおおる、あいつ程ではない」と思うのです。ところが、そのうち「自分はいつ以上だ」と気付くのです。いつも家族と一緒に環境にいますから、家族と一緒に環境を変えないといけません。人の話を聴いて本来の在るべき姿に変えるのです。「地獄を見たければ、アルコール依存症者のいる家庭を見よ」などという笑えない話があります。これはアルコール依存症は本人だけの病気ではなく、家族全体を巻き込んで苦しめるものであることを端的に表現しています。



事務局長 安永 健吾さん 参与 板東 千代喜さん 参与 堀江 治さん

断酒会に来たら、酒がやめられるという会ではありません。やめ方を教わるのではなく、例会に参加して、それぞれの会員と家族の体験談を話し、聴くことにより、初めは「あんなに悪いやつもおおる、あいつ程ではない」と思うのです。ところが、そのうち「自分はいつ以上だ」と気付くのです。いつも家族と一緒に環境にいますから、家族と一緒に環境を変えないといけません。人の話を聴いて本来の在るべき姿に変えるのです。「地獄を見たければ、アルコール依存症者のいる家庭を見よ」などという笑えない話があります。これはアルコール依存症は本人だけの病気ではなく、家族全体を巻き込んで苦しめるものであることを端的に表現しています。

本人が病気から回復しなければならないのは勿論ですが、実は家族もまた病気に巻き込まれて悪影響を受けてきました。そのため、家族全体が病んだ関係になっているのです。家族は酒を飲まなくても、本人と同じ病気なのです。特に子どもに大きな影響を与えて世代間連鎖します。幼児期に、アルコール依存症者の家族がいると、家庭の中でいつも恐怖感と緊張感があり、子どもらしい子ども時代を送っていないため、死ぬまでインナーチャイルド(心の傷)が残ってしまいます。

そして、頭の中は100パーセントアルコールに支配され、家族や周りの人のいう事は一切聞かず、感性が失われ、相手の痛みなど考える余地もありません。家族が協力してくれているから、家族を裏切るの人間ではないということを、断酒会で教えてもらいました。

徳島県は、全国的にも特に家族の在り方が進んでいます。家族の賢さと努力が名実ともに素晴らしいと思ひます。アルコール依存症から回復するには家族の繋がりと協力が一番なのです。

(取材：北岡 敏弘・橋本 志穂)

家族会について

断酒会には、断酒会本体のほかに家族会という組織があります。家族会の持つ力は、色々な意味で大きなものがあります。今回取材させていただいた家族会は、京都市からお越しの参加者が含まれていましたが、家族だけで悩みを話し合う会でしたので断酒会本体の会員は参加していません。(普段は会員と家族が入り混ざって話をしています)そこには本人がいないからこそ話しが出来るという利点があります。今回、家族会の板東さんと堀江さんにお話を伺いました。断酒会に入るまで、家族は苦労が絶えなかったようです。「私が元気でいて、夫を置いて先にいかないようにしたい。」堀江さんがポツリとつぶやいた一言に家族の深い結びつきを感じることができました。



家族会の様子

家族会に入るきっかけは、人づてで。入会するときには、あんまり知識がないほうがいいと思ひます。



会場寺院

徳島に帰ってきて、夫には心の居場所がなく酒に逃げ、飲むのをやめられませんでした。

母親が断酒会を見つけてきましたが、本人が入会するまでに8~10年かかりました。

家族がしつこく言い続けたことが、断酒会参加に繋がって、結果、本人も断酒できました。



家族会 堀江さん

家族の幸せはもちろん大切ですが、断酒会は、「心の改革」を目指しています。心を改革するためには、アルコールに依存する本人が来なければ駄目。家族が心の改革をして、幸せになったら、本人もあつと付いてくると思ひます。だから、家族会の存在は本当に大事です。

酒を飲んでいる本人同士は、いきなり繋がるのが難しいけれど、先に家族が繋がれば、本人を連れてくるのができます。

最初の一歩を踏み出すのがなかなか大変。他の家族と話ができて、家族同士が繋がっていきます。断酒会は、家族会の存在が大きいです。



家族会 板東さん 家族会 島田さん

活動の様子



酒無し忘年会



定期的に行われる例会



四国ブロック(徳島・阿波)大会



飲酒運転根絶キャンペーンに参加



会員と家族が協町の交通安全三味線餅つきに参加する様子

NPO 法人 徳島県断酒会

理事長 原 昇平

住所：〒771-1151 徳島市応神町古川字高良 159-9
TEL:088-641-0737(事務局)
<http://www.tokushimaken-dansyukai.or.jp>



けん玉は最強のコミュニケーションツール



日本けん玉協会 徳島県支部
たぎき たかや
支部長 田崎 隆也さん

● 〒771-0360 徳島県鳴門市瀬戸町明神字鳴谷 114-8
E-mail : tokushimajka@gmail.com
HP : http://tokushimashibu.crayonsite.com/

鳴門市を拠点に活動する日本けん玉協会徳島県支部支部長の田崎隆也さんにお話を伺いました。道場に入ると、子どもたちの「こんにちは！」という元気な声。「礼に始まり、礼に終わる」ということを、指導する上で一番大事にしているそうです。

田崎さんが、けん玉に関わるようになったきっかけは、愛娘の「けん玉、やってみたい！」の一言。その後、けん玉を教えるために独学で2級指導員の資格を取り、徳島県に支部を作りました。資格を取れたことで、道場を持てるようになったのですが、「もっと、けん玉好きな子がいるんじゃないか？」という思いから、小学校や児童館、各種イベントでのパフォーマンスをコツコツとやってきた結果、今では石井教室と鳴門道場で頑張っている子は約100名。それに検定やイベントに参加する子たちを合わせると500名を超えます。

けん玉を広めるために奔走している田崎さんですが、普段は、毎月第1・第3木曜日に「徳島県立総合福祉セン

ター」で、毎週日曜は鳴門市にある「徳島けん玉道場」で練習をしています。現在は11月の徳島県大会に向けて、猛練習中とのことで、子どもたちも「がんばるぞ!」と気合い十分でした。田崎さんの熱心な指導が実を結び、女子の部では、現在4連覇中とのことです。

田崎さんは、指導する上で「あせらず、あわてず、あきらめず」ということも大切にしています。人と比べてできないことを焦ってしまう子には、「成長の速度はそれぞれだから、焦らなくていいよ」と、その子に応じた指導を心掛けています。子どもたちもそれに答えて「諦めなければ、もっと上に行ける」ということを信じて頑張ってくれていると、嬉しそうに話してくださいました。

そんな田崎さんが、今悩んでいることは、指導者の不足です。けん玉を教えてほしいと言ってくるところは結構あるんですが、それもままなりませんと残念な表情。指導者には、普及員と、審査の難しい2級指導員などがありますが、2級指導員は県内に4人しかおらず、大会を開く時などには、スタッフ不足のため保護者の方にもお手伝いいただいています。子ども達と一緒に楽しみながら、けん玉を指導してくれる仲間を絶賛募集中です。

活動を続けていく原動力は、大会で勝つという目標に向かって、一緒に夢を見て頑張ることや、子ども達の「できた!」という笑顔だと教えていただきました。また、練習だけでなく、いろいろなイベントでパフォーマンスをしたり、教えたりすることで、徐々にけん玉の輪が広がってきていることも、励みになっているそうです。

けん玉は昔遊びの一つとして知られていますが、田崎さんは、コミュニケーションツールだと言います。家族や友達同士で教え合いながら繋がっていくすばらしいものです、皆さんぜひやってみませんか、笑顔で話してくださいました。



(取材: 篠原 督人・秋月 大輝)

シリーズ この人から

高校生プロジェクト! チームRe:ver

NPO 法人エコロジカル・ファーストエイド 理事長/ 研究員 佐藤 貴志

小松島市は下水道普及率0%。水環境は劣悪です。しかし、行政は悪くありません。海拔が低く、大雨時に洪水が発生しやすく、下水道より洪水対策を優先して生活を守ってくれています。

劣悪な水環境を改善するために、小松島西高校と小松島高校の学生たちが立ち上がりました! プロジェクトは、「高校生プロジェクト! 下水道がない小松島に、高校生が水質浄化装置を作って川を蘇らせる!」。彼らは、チームRe:ver (リバー) を結成し、学校、行政、企業、地域住民を巻き込む社会貢献プロジェクトを展開し



ています。昨年、僕のところに高校生たちが相談に来ました。「高校を卒業するまでに、小松島市の人々に恩返しをしたい!」まさに現代社会が必要とするSDGs。当団体の特許技術を無償提供し、高校生自ら装置を製作、水路の浄化をすることになりました。

対象水域は、汚水だけでできた水路。化学的酸素要求量が250mg/L以上で生物が住めない環境。これが現在では10mg/L程度で、生物多様性が蘇りました。特記すべきは、高校生が自らの力で道を切り拓いたこと。学校、行政、企業にプレゼンを繰り返し、市長の後押しももっています。

彼らは、「グローバル社会を生き抜く力を自然の中で」身に付けてます。



YOUプロジェクト
水質浄化装置 YOU (特許第604721号、第5192608号ほか)
環境浄化微生物などの技術提供 / 培養、活用法など / 親子でできる自然界への応急手当、親子で参加する環境学習・講演など

「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業報告をします。

「ゆめバンクとくしま」助成金授与式



令和元年度「ゆめバンクとくしま」助成金授与式が7月21日に執り行われました。8団体への助成金授与に続いて、各団体から団体の紹介や活動内容について発表があり、その後、団体間での交流が行われました。



2020年度生(学習開始日/2020年4月1日)申し込み受付中

社会福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年6ヶ月コース)・短期養成課程(9ヶ月コース)

精神保健福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年7ヶ月コース)・短期養成課程(9ヶ月コース)

～進学説明会のご案内～

12月7日(土) 10:30~12:30

場 所 / 徳島市徳島町2-57(国道11号沿い)
専門学校穴吹調理デザインビューティカレッジ 第II校舎5F(501教室)

社会福祉士や精神保健福祉士に興味があり通信制で資格取得を考えている方へ、学習内容(レポート・スクーリング・実習)等について説明や個別相談を行います。事前予約は必要ありません。お気軽にお越しください。

教育訓練給付制度
対象講座



詳しくは
QRコードから
HPをごらん
ください。

好きな時間でプロになる
穴吹バティシエ福祉カレッジ
〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10
TEL.087-823-5566

イベントガイド

第14回とくしまNPO・ボランティアフェア

日時：令和元年11月4日(月・祝日)
10:00~15:00

場所：新町川水際公園

主催：第14回とくしまNPOボランティアフェア実行委員会
県内のNPO・ボランティア団体によるステージ発表や活動展示・商品の販売を行います。皆さま、お気軽にお立ち寄りください。



「みのだっこタウン」開催

子どもたちがいきいきと活動するまち「みのだっこタウン」を開催します。子どもたちが社会貢献活動団体の方たちから活動を教わり、一緒にいきいきと活動することにより、活動の内容や重要性を学びます。ぜひ、遊びに来てください!!

●みのだっこタウン

日時：令和元年10月6日(日) 10:00~15:00

場所：三好東部福祉センター(東みよし町)

内容：NPOボランティア活動体験
(ステージ発表・製品販売等)

主催：とくしま県民活動プラザ
徳島県社会福祉協議会
徳島市市民活力開発センター



ハートリレー

No.48 山本さんから木村さんへ



保護ねこ一む「Boron」
設立メンバー 木村 浩恵さん

一匹でも多くの猫たちを救うために

鳴門市在住の木村浩恵さんは動物取扱責任者の資格を持ち、徳島県内外で捨てられるなどした猫たちを保護して、里親とつなげるための保護ねこ一むを活動仲間とともに開設しています。猫を飼いたい人が客として訪れ、身寄りのない猫を引き取って飼い主になることができます。猫を飼えなくても猫たちと触れ合い、命の大切さを感じ取ったり、訪れることで餌代や治療費をサポートすることができます。産まれてすぐに放置されてしまった赤ちゃん猫たちをあたため、数時間おきにミルクを与えて、愛情のこもったお世話を日夜しています。ウイルスチェックやワクチン接種、医療が必要な猫には治療を受けさせて、かわいく元気になった猫たちが温かい居場所を得られるよう活動しています。また、多くの罪なき猫たちが殺処分されることのないよう、不妊去勢手術も受けさせています。一匹でも多くの猫たちの命を救いたいというこの活動が益々広がっていくことを心から願ってやみません。



文・山本 恭代

とくしま県民活動プラザ

●プラザ開館時間
開館時間：10:00~18:00
【研修室利用時間】
火曜日~土曜日：10:00~21:00
日・祝日：10:00~18:00
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、
年末年始



●公共交通機関をご利用の場合●

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、
・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

編集後記

NPO法が施行されて20年が過ぎた。県内のNPO法人は360余り。都道府県別に人口10万人当たりで見ると、全国上位。複雑・多様化する地域の課題に、柔軟かつきめ細やかに対応し、「社会システム」の一翼を担っている。▲そのNPOやボランティアで今一番の課題は「担い手不足」。活動の衰退を危惧する団体も増えているとか。▲いかに若者を活動に呼び込むか。キーワードは「相互実現」。決め手は、やはり「人」ではないか。▲県民活動プラザでも人材育成の事業に力を入れているので、是非、有効に活用いただきたい。(新居正志)

地域の中での自分の居場所づくり

高齢者サロンについて

徳島文理大学保健福祉学部人間福祉学科准教授 古川 明美



地域の居場所として、地域のどなたでも参加できる「高齢者サロン」(以下サロン)があります。高齢者が多く参加しているサロンは各地域で開催されています。参加することで地域の中で親しい仲間づくりができ、おしゃべりや体操することが介護予防にもつながり、心の安らぎや生きがいになるという効果もあります。

開催内容は、100歳体操やカラオケ、ゲームなどがあります。参加者は女性が多く、今後男性の参加者を募っていくことがサロンの課題のひとつです。参加者の中にはご夫婦で、助け合いながら体操やゲームをされる姿が見られとても微笑ましいです。

開催の時間や曜日、回数は、各サロンで異なっています。地域の集会所や公民館などを開催場所として使用すると、会場費は無料です。会場費が必要なサロンも存在します。徒歩で参加できる地域の交流の場が最適でしょう。皆さんもサロンに参加して、健康的な日々を過ごしましょう。

子どもたちのボランティア活動

地域を愛する心を育む 三加茂中学校



「地域を知り、地域に愛着を持ち、将来故郷に帰り、東みよし町で生活したいと思えるようになってほしい」三加茂中学校では、夏休みに校区内50箇所11グループに分かれた全校生徒が『地区別一斉清掃活動』に取り組んでいます。生徒からは、「ありがとうと言ってもらえて嬉しかった」「これからも続けていきたい」「ほくたちの地域がきれいになって嬉しい」「地域のことを知るいい機会だと思う」という感想が多くみられます。

昨年度は10年ぶりにこの清掃活動を再開し、フィールドワークを取り入れました。身近な場所の危険区域や避難場所を把握するとともに、地区理事の方から地域に対する想いをお聞きしました。活動に対する意欲が低かった生徒が、「地域のことを初めて知ることができた」と目を輝かせる場面もあり、生まれた町に対する関心も深まったようでした。一緒に清掃活動を行った地域の方からは、「生徒と関わるきっかけをつくってくれた」との声もあり、生徒と地域住民が相互につながりを感じる時間となりました。



今年の夏も、生徒は地域と関わる体験を重ね、地域を愛する心を育てています。

一生、いい歯と付き合うために。

「成人歯科健診を推進しています」

一般社団法人
徳島県歯科医師会
会長 森 秀司
徳島市北田宮 1-8-65 電話 088-631-3977

ホームページ



くすりのご相談は かかりつけ薬剤師・薬局へ!



一般社団法人
徳島県薬剤師会
会長 水口 和生
TEL 088-655-1100
FAX 088-655-6991

徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!



一般社団法人
徳島県医師会
会長 齋藤 義郎
徳島市幸町3丁目61番地
TEL 088-622-0264

CLEANUP 吉野川をきれいに!
参加団体、募集中。

吉野川交流推進会議
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
県民環境政策課内
TEL 088-621-2743
FAX 088-621-2758
E-mail office@yoshinogawa.org
http://www.yoshinogawa.org/

ふくしと私



社会福祉法人 十字会
みのり乳児園

園長 加藤 仁

大学卒業後、福祉とは別の職業に就いていた私に、父と兄から神戸市にある虚弱児施設で働いてみないかという話があり、バイタリティ溢れる園長先生との出会いによって福祉の道へとスタートしたのです。



園舎全景

「実践は理論に通じる」という園長先生の言葉を励みに、8年余り住み込みで子ども達とともに生活をしてきました。その中で、日々の活動を通して子ども達との信頼関係や絆の深まりを感じていったように思います。最も心に残っているのは一緒に生活してきた子ども達も最後に言ってくれた「ありがとう」の言葉です。この五文字の重みを原点とし、その後保育所で2年間従事し地元に戻りました。それから35年近くよき職員に恵まれ保育に従事させていただいています。

はなりません。その乳幼児を保育する中で常に考えることは、子どもたちに心も身体も寄り添いながら「気づく」ということの大切さです。自分自身が「一生青春、一生勉強」の気持ちで

日々保育を楽しんでいます。保育界においては、すべての子ども達も笑顔で成長していくために、そしてすべての家庭が安心して子育てができ、育てる喜びを感じられるようにと、平成27年から子ども・子育て支援法が施行されました。また、今年度においては待機児童対策・保育士の人材確保等多くの課題と向き合っており、10月から幼児教育・保育の無償化が実施されます。たとえ制度が変わろうとも、常に園の主人公である子ども達にとってより良い保育環境や従事する職員の環境を整えながら「一人は万人のために、万人は一人のために」の言葉を心の礎に日々切磋琢磨して



雨のおさんぽ



かけっこ

ともに生きる豊かな福祉社会を目指して

徳島県市町村社会福祉協議会職員連絡会

社協職員としての役割を發揮するために

会長 吉坂 渉

徳島県市町村社会福祉協議会職員連絡会は、市町村社協の職員が会員となり、市町村社協及び会員相互の連携強化、社協に関する調査と研究、会員の資質向上等を目的とした事業を行っています。

本会内に、事務局長会、事務部会、地域福祉活動部会、在宅福祉サービス部会、ボランティアアコーデイネットワーク部会、広報委員会を設置し、地域共生社会の実現に向けた部会別での研修会を開催したり、課題共有や検討・協議したりして、社協の役割を發揮するための取り組みを行っています。

本年度からは、「活動実践報告会」を開催し、各社協の重点的な取り組みを改めて振り返り、報告する機会を設けて、地域福祉課題に対応したプラットフォームとしての役割を改めて構築することとしています。

今後も、地域福祉推進の中核を担う社協職員として、資質向上に一層取り組んで参りたいと思っております。



活動実践報告会



在宅福祉サービス部会

ありがとうございます

●株式会社JR四国ホテルズホテルクレメント徳島様より、県内高齢者福祉施設13ヶ所へピアガーデンの御招待 ●徳島県阿波牛販売推進協議会様、徳島県食肉荷受株式会社様より、児童養護施設7ヶ所へ牛肉50kgの御寄贈 ●公益財団法人徳島県文化振興財団様より、児童養護施設等へ「音楽の絵本」コンサートの御招待

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成31年度
全国200万人
加入!!

保険金額		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	1,400万円
	後遺障害保険金	1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術 65,000円	100,000円
		外来の手術 32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料 (1名あたり)		
タイプ	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ <small>(※)</small> <small>(基本タイプ+地震・噴火・津波)</small>	500円	710円

http://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)
送迎サービス補償 (傷害保険)
福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

©SJK18-13558 2019.1.16作成

第63回
徳島県社会福祉大会を
開催いたします。
ぜひ、御参加下さい。

1 趣旨

県内の社会福祉関係者が一堂に会し、「誰もが、身近な地域で、その人らしく、安心して生き生きと暮らすことのできる福祉社会の実現」に向けて、その具体的な取り組みを進めることを誓い合うとともに、永年にわたり社会福祉の推進に功績のあった方々に敬意と感謝の意を表することを目的として開催いたします。

2 開催期日・日程

令和元年11月20日(水)
・12:30~開場・受付
・13:30~式典
(あいさつ・表彰・大会宣言)
・15:00~記念講演

地域とお客さまの「ベストパートナー」へ

阿波銀行
http://www.awabank.co.jp/

環境にやさしい銀行を目指し
環境保全活動に取り組んでいます。

徳島銀行
http://www.tokugin.co.jp

福祉職場のメンタルヘルス研修

～アサーティブ・コミュニケーションについて～

令和元年6月25日(火)に株式会社Qua(きやりあLab徳島)代表取締役の倭和代氏を講師にお招きし、「福祉職場のメンタルヘルス研修～アサーティブ・コミュニケーションについて～」と題して、高齢・障がい・児童の各施設や社会福祉協議会などから44名の方々にご参加いただき開催しました。

当日の研修内容やアサーティブ・コミュニケーションのポイントなどについてご紹介します。

アサーティブ・コミュニケーションをご存じですか？

「アサーティブ・コミュニケーション」とは、相手を尊重しながら適切な方法で自己表現を行い、お互いを尊重しながら意見を交わすコミュニケーションスキルの一つです。アサーティブを学ぶことで、「コミュニケーション能力が高まる」「職場が活性化する」「仕事の効率が上がる」「ストレスが減る」などといったメリットを実感いただけるはずです。



アサーティブ・コミュニケーションを活用したい場面をグループで検討しました

研修プログラム

- <10:00～16:00 講義・演習>
- 自分のコミュニケーションパターンとは
- コミュニケーションの基本習得
「しっかり聴く」「適切に伝える」
- 言いにくいことを上手に伝える

研修を終えて

研修当日は、コミュニケーションの基本である傾聴力や、良いコミュニケーションのポイントを学びました。また、相手の話を受け止めながら、自分の気持ちを伝えると言ったアサーティブ・コミュニケーションの考え方を学ぶ機会にもなりました。

受講生の声

- 自分自身のコミュニケーションの傾向を知り、振り返る機会になりました。
- 講義の途中に演習があり、楽しく参加させていただくことができました。学んだことを職場で活かしたいです。

開催間近の研修です！

10月10日(木)
「リスクマネジメント研修」
詳しくは右記のQRコードからご確認ください。



アサーティブ・コミュニケーションのポイントについて倭先生に聞きました

株式会社 Qua (きやりあ Lab 徳島)
代表取締役 倭和代氏

意見を伝えるときに難しいのが、自分の気持ち(感情)を適切に相手に伝えることです。人の感情や行動は、ものの考え方に着目し、なぜそう感じたのかを考えましょう。

人が自分の性格を変えることは簡単なことではありません。しかし、考え方や行動を改めることはできます。アサーティブ・コミュニケーションを取り入れ円滑な意思疎通ができるようになります。自分でしっかりと考えて意見をすることができるようになり、困っている時には率直にうちあけることができますようになります。

四国地域福祉実践セミナー分科会の内容を報告します

分科会2

地域共生社会を目指した生活支援の実践

社会的孤立の防止や地域住民の互助意識の向上等に向け、住民サービス実施団体や民生委員児童委員が地域のなかでどのような役割を果たしていくかについて共に考える分科会でした。時間預託の仕組みによる活動や子どもの成長を支える子ども民生委員活動は、地域住民の学びと地道な取り組みから生まれたものであり、助け合い活動が循環する姿でした。

船頭・石井町社会福祉協議会
事務局次長 芳川佳久氏



分科会1

地域共生社会を目指した防災とまちづくり

防災をキーワードとした安心・安全な地域づくりについて共に考える分科会でした。中学生と地域団体が行う防災活動が住民を動かした実践を通して、防災という切り口からの次世代育成・コミュニティ再編が見えました。また、地域防災力の向上に向け、住民が要配慮者と共にまちづくり活動に参加することが重要である等の意見がありました。

船頭・前四国大学教授
日開野博氏



分科会4

地域共生社会を目指した社協の活動

四国各県の社会福祉協議会での取組事例をもとに、社協活動のあり方を改めて考える分科会でした。社協の役割のひとつである地域のつながりの再構築に向け、「何のために、誰のためにするのか」を忘れず、社協目線のみにならないよう個別の課題から地域支援を見据えた活動への展開や、社協として「断らない相談支援」を目指す重要性についての助言もいただきました。

船頭・今治市社会福祉協議会
総務部長 島崎義弘氏



分科会3

地域共生社会を目指したコミュニティサロンの実践

コミュニティサロンを地域の多世代が集まる居場所として捉え、その運営による地域の拠点づくりが地域共生社会づくりにどのような寄与するかについて共に考える分科会でした。地域貢献を目的としたコミュニティカフェや、子どもの居場所に交流サロン機能を持たせて課題解決にも取り組んでいる活動など、多様性に満ちた話題提供がありました。

船頭・美馬市社会福祉協議会
事務局次長 佐和良佳氏

